

## 歴博 くらしの植物苑だより

第109回くらしの植物苑観察会 4月29日(火)

### 新緑の城址公園を歩く

中川 重年(本館研究部客員教授)

本館およびくらしの植物苑のある高台は元の佐倉城の跡、現在は多くの古木が斜面に残り自然林を形成しています。こうした自然林を構成する樹木は常緑樹が多いのが特徴です。他の季節はいつも濃い緑をしており地味ではありますが、1年に1度だけ、4月下旬から5月中旬にかけて、美しい新緑となります。本日歩くコースは常緑樹が多く周辺地域の里山地域の落葉樹主体の森林と比べて大変特徴的です。スダジイ、タブノキ、シロダモ、アカガシ、あるいはクスノキと種類はそれほど多くはありませんが、一本一本違った色合いになって個性を際立たせています。

一方、冬の間葉を落としていた落葉樹もこの季節には新しい葉を出してさわやかな季節を演出しています。ムクノキ、エノキ、ケヤキ、ハリギリ、ミズキ、クマノミズキそれぞれに違った葉の形、樹形をしています。また木の花も上記の他、マユミ、ニワトコ、クロモジなどの地味な花が咲いています。林の中にはさまざまな樹木の実生があちこちに見られます。若い葉から大きくなった木を通じて、その年月を想像してみましょう。

くらしの植物苑の内外を歩きながら木の形や特徴の解説をおこないませんが、同時に人のくらしにこのような木々がどのように利用されたかについても説明してゆきます。

メモ：

スダジイ

タブノキ

ケヤキ

ムクノキ

ミズキ

---

**次回予告**

第110回くらしの植物苑観察会 2008年5月24日(土)

「身近な山菜」 中川 重年(本館研究部客員教授)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要 要入苑料